

# 中学部の取組

## 中学部の取組

### 1 テーマについて

#### 「個性を大切にしたい支援体制の確立」

かがやく子どもの姿

< 楽しく活動に取り組む >	< 持てる力を精一杯発揮し主体的に取り組む >
< 友だちと力を合わせて取り組む >	

#### (1) テーマについて

昨年度は「自ら進んで活動に取り組む姿を目指した授業づくり」というテーマで、教育課程の中心的活動となる「作業学習」を取り上げ、実践を行ってきた。「自ら進んで活動に取り組む」ために、生徒一人一人が十分に活躍できる場を設定し、一人一人に応じた役割分担や補助具の開発、場の設定を心がけた。

今年度は「個性を大切にしたい支援体制の確立」をテーマとして「作業学習（工芸）」を中心として研究を進めていくことにした。「個性を大切にしたい支援」には「環境・教材教具・教師のかかわり」などが要素として考えられる。特に工芸の活動では一つ一つの活動において、手順が複雑だったり、危険を伴うものであったりするため、生徒一人一人の個性に合わせて細かい配慮をした環境・教材教具づくりが必要である。生徒一人一人の個性やその小さな変化を見逃さず、教師全員で個性に合わせた支援体制を確立することで、自分でできることが増え、思いっきり、主体的に取り組むことができ、笑顔いっぱいの学校生活を送ることができると考えた。

#### (2) 授業づくりの3つの観点

中学部では「個性を大切にしたい支援体制の確立」を行うため、以下の3つの観点について、生徒一人一人のニーズや個別の指導計画等と関連させながら、支援方法を考えてみた。そして生徒が持てる力を精一杯発揮し、友達と協力しながら主体的に取り組むための教師の実践力の向上を図りたいと考えた。

##### ア 活動の進め方

- ・決まった自分の役割を毎日繰り返して行うことで、活動への見通しを持つことができるようにする。
- ・個別に活動目標等を設定し、授業の最後にはその時間の成果を発表するようにし、活動の達成感を持つことができるようにする。

##### イ 場の設定や教材・教具等の工夫

- ・様々な補助具の開発・工夫を行い、生徒それぞれが持てる力を精一杯発揮できるようにする。
- ・工程順に活動場所を並べると共に、全生徒の顔が見えるように活動時の生徒の位置に配慮し、友達を意識しながら取り組むことができるようにする。

##### ウ 教師のかかわり方

- ・生徒が楽しく取り組めるように、雰囲気づくりに努める。
- ・活動に自信を持って取り組むことができるような声かけ等を行う。
- ・主体的に取り組めるように、作業内容に関しては最低限の声かけを心がける。

2 年間学習計画

	行事	朝の運動	生活単元学習 / 作業学習 (総合的な学習の時間)	学部集会 委員会活動	交流学習 (総合的な学習の時間)	
4	始業式 8日 入学式 8日 交流 16日 歓迎遠足 17日 PTA 総会 27日	時間 走 ゲ ー ム な ど	中学部新入生歓迎会 10日	人権教育や性教育に関しては朝の会や帰りの会を利用して随時行う	お見知り会 16日	
5	輝き大会 11日 運動会 18日 校外学習 27日		学級 4/9 ~		*運動会 4/21 ~ 5/18	運動会予行 本校運動会
6					グリーンピース収穫 5/20 ~ 23	
7	給食試食会 4日 スマイル商店 5日 マリノフェスタ 10日 校外学習 15日 終業式 18日				ニコニコスマイル 5/26 ~ 7/7 商店 販売: 7月5日 反省会 7日	
9	始業式 1日 授業参観 本町中体育大会 14日		学級 (第1週) プール		本町中体育大会 天養まつり ~ 天草であいふれあい フェスタもー維だよ in ニコニコスマイル商店 9/16 ~ 10/21 反省会 10/21	本町中体育大会予行 本町中体育大会 14日
10	研究発表会 2日 天養まつり 19日				進路学習 10/27 ~ 31	天養まつり
11			調理 (芋づくし) 11/4 ~ 14			ふるさと祭り看板作り
			創作活動 11/17 ~ 28			
12	文化の日 5日 終業式 24日		学級 体力作り		作業(工芸) 12/8 ~ 22	
1	始業式 8日 給食週間				天草よかとこ フェスティバル in ニ ニコニコスマイル商店 1/13 ~ 2/10 反省会 2/10	カードや手紙流 等による交流
2	天草よかとこフェスティ バル 8日				お別れ会をしよう 2/16 ~ 3/5	
3	お別れ会 卒業式 13日 修了式 24日				学級 3/9 ~ 3/23	

### 3 実践（取組の実際）

#### （1）単元名

「まつり！ てづくり！ ものづくり！」

#### （2）単元について

<力合わせて！ 7人！>

中学部は、1年生5人、2年生1人、3年生1人の計6人で様々な活動に取り組んでいる。1年生は、新しい環境や活動、生活リズムにも早々に慣れ、1学期は楽しく活動に取り組む姿を見ることができた。2・3年生は、学校生活にある程度見通しを持ち、取り組むことができている。ほとんどの活動を学部全員で活動することが多いため、みんなで力を合わせ、仲良く活動に取り組むことができるようにしている。

<秋だ！まつりだ！>

秋の学校行事「天養まつり」に向けて取り組む。まつりでは、様々な出し物、バザーや作業製品の販売、お客さんとのふれあい等を楽しみにしてる生徒も多い。

まつりを盛り上げるため中学部では、作業学習の他に、当日に向けて期待感を高める「カウントダウン看板」、みんなで楽しむ「ゲームコーナー」等を作成・準備したい。お店を飾る看板、値札なども生徒たちの手で作成したい。また、たくさんのお客さんに来てもらえるようチラシ配りを設定し、PR活動にも取り組む。最終週には接客の練習を取り入れ、お客さんとコミュニケーションをスムーズにとれるようにし、笑顔で楽しく販売活動ができるよう取り組みたい。それぞれが持っている力を作業学習や委員会活動等の場面で活かし、まつり実行委員、店長を中心に活動を進め、縦、横のつながりを大切にしながら取り組んでいきたい。

<いいもの いっぱい ものづくり！>

作業学習では園芸・工芸の2つの作業種に取り組んでいる。作業期間をそれぞれ設定し、園芸では、冬から春に向けての花苗・寄せ植えづくり、工芸では、新製品「メモとれー！」の製作に取り組んでいく。

工芸作業では、1学期「ラック×ラック」の製作に取り組んだ。最初は機械を怖がっていたり、少々危ない手つきの1年生だったが、補助具や手順書等を活用することでほぼ一人で活動を進めることができるようになった。2・3年生は、先輩らしく時間いっぱい、自信を持って活動に取り組むことができた。“また販売したい”“作業楽しい”などの思い、達成感を再び味わうことができるようにしながら作業意欲を高め、生徒一人一人に応じた補助具の開発・工夫、場の設定等により自分の役割を自覚し、時間いっぱい活動してほしい。また、全員で活動に取り組むので、友達と協力することの大切さ、作業への責任感も感じてほしい。

#### （3）単元のねがい

- ・準備活動では、活動に楽しく参加してほしい。
- ・作業学習では、自分の役割に精一杯取り組んでほしい。
- ・まつり当日は、まつりの雰囲気を感じ、充実感を味わってほしい。

#### （4）授業づくりの3つの観点

<単元全体>

ア 単元活動の進め方

- ・朝の会を行う教室に、単元表を貼るようにする。
- ・朝の会時に店長が、まつりまでのカウントダウンを行うようにする。

イ 場の設定や教材・教具等の工夫

- ・活動内容により、場所を分け、見通しを持って取り組むことができるようにする。
- ・準備活動では、ステンシルや筆の工夫を行い、生徒一人でも取り組めるようにする。

ウ 教師のかかわり方

- ・活動中の声かけは必要最小限にする。
- ・楽しく活動できるよう雰囲気作りに努める。
- ・様々な活動に自信を持って取り組むことができるような声かけ等を行うようにする。

<作業学習>

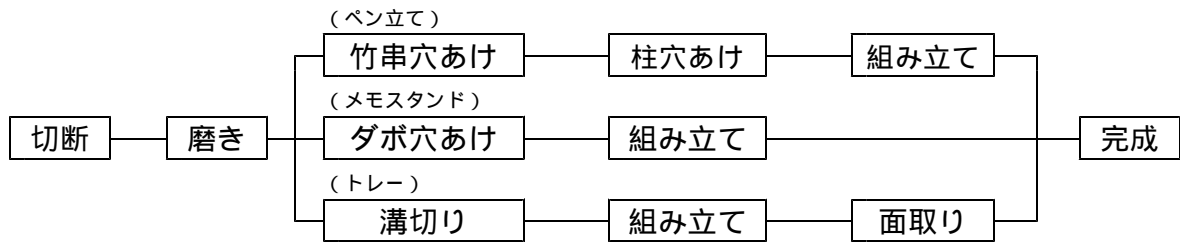
ア 作業学習の進め方

- ・決まった自分の役割を毎日繰り返して行うことができるようにする。
- ・活動を始める際は全体で活動の確認を行い、授業の最後にその時間の成果を発表する。
- ・個別に活動目標や活動量・内容等を設定し、その生徒にとってわかりやすい方法で提示する。
- ・完成した製品の数だけシールを貼っていく。
- ・毎日十分に活動できるように、工程ごとに十分に材料を準備しておく。

イ 場の設定や教材・補助具等の工夫

- ・作業学習では、様々な補助具の開発・工夫を行い、それぞれの力が発揮できるようにする。

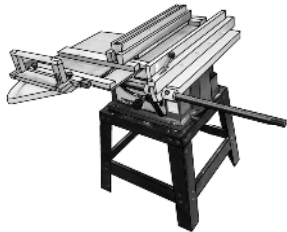
<工程の流れ>



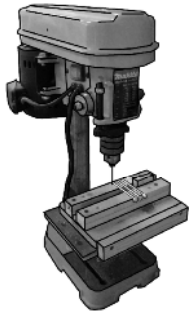
メモスタンドに使用する紙は、活動が早く終わった生徒が切り、穴をあける。

<補助具>

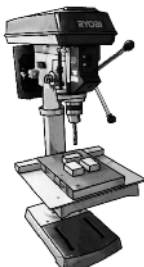
切断(平板): 三村	
	<p>(活動の流れ)</p> <p>教師が木材をセットしたあと、スイッチを入れ、補助具を押し、切断する。切断された木材を取って、箱に入れる。</p> <p>(補助具の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スイッチを押しやすいように、機械の電源と異なる入れやすいスイッチを手元に用意する。</li> <li>・安全に取り扱えるように、刃の部分には絶対触ることができないようにする。</li> <li>・どこまで押せばいいのか分かるように、最後まで押すと好きなトラックの写真が出てくるようにする。</li> </ul>

切断（柱）：三村	
	<p>（活動の流れ）          教師が木材をセットしたあと、スイッチを入れ、補助具を押し、切断する。切断された木材を取って、箱に入れる。</p> <p>（補助具の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使い方や手順を「切断（平板）」の補助具と同じにして、分かりやすくする。</li> </ul>

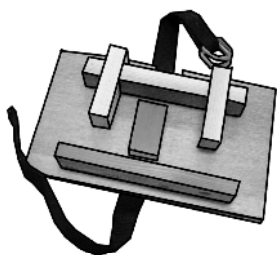
（ペン立て）

竹串穴あけ：岩本	
	<p>（活動の流れ）          補助具に木材、ストッパーをセットし、スイッチを入れ、穴をあける。ボルトを1つはずし、木材をずらし、穴をあける。1つの木材に4カ所穴をあける。</p> <p>（補助具の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・均等に穴をあけることができるようボルトで穴の位置を設定する。</li> <li>・穴をあける際、木材が浮かないようストッパーを準備する。</li> </ul>

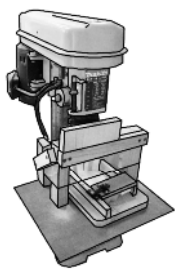
（ペン立て）

柱穴あけ：竹田	
	<p>（活動の流れ）          木材をセットし、電源を入れてレバーを下ろす。</p> <p>（補助具の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材をセットする場所にゴミがたまって位置がずれるのを防ぐために、ゴミが自然に落ちるように穴をあける。</li> </ul>

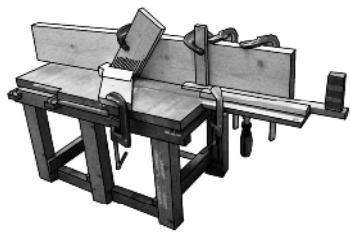
（ペン立て）

組み立て：大山	
	<p>（活動の流れ）          木材にボンドを塗り、補助具にセットする。赤色のストッパー部品をセットする。布ベルトで固定する。</p> <p>（補助具の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布ベルトで固定した際、木材がずれないように内側にストッパーを置く。</li> <li>・しっかり固定できるよう布ベルトを使用する。</li> </ul>

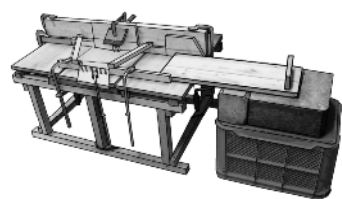
(メモスタンド)

ダボ穴あけ：山田	
	<p>(活動の流れ) 補助具に木材を差し込み、ストッパーで押さえる。スイッチを入れ、穴をあける。</p> <p>(補助具の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ドリルの刃に直接触れることができないように、カバーをつける。</li><li>・スイッチが押しにくいので、手元にスイッチをセットする。</li></ul>

(トレイ)

溝切り：竹田	
	<p>(活動の流れ) 木材をセットして、押し棒を使い木材を押しトンネルを通す。トンネルの向こう側に出てきた木材を取る。</p> <p>(補助具の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・安全に扱えるように、刃の部分はトンネルの中に隠し、手で触れることができないようにする。</li><li>・木材を押さえる部分は櫛状に切れ目を入れて、弾力を持って木材を押さえることができ、逆流を防ぐようにする。</li></ul>

(トレイ)

面取り：竹田	
	<p>(活動の流れ) トレイをセットして、押し棒を使いトレイを押しトンネルを通す。トンネルの向こう側に出てきたトレイを取る。</p> <p>(補助具の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・使い方や手順を「溝切り」の補助具と同じにして、迷わず取り組めるようにする。</li></ul>

ウ 教師のかかわり方

- ・活動中の声かけは必要最小限になるようにする。
- ・教師もそれぞれの活動に取り組み、生徒と一緒に活動する。
- ・楽しく活動に取り組めるように、雰囲気作りに努める。

(5) 単元の経過と概要

生徒一人一人が自分の役割を自覚し、時間いっぱい活動できるような補助具の開発・工夫、場の設定等を行い、本単元に取り組んだ。1学期の経験を基にそれぞれが機械の操作等にさらに興味を持ち、自分の役割をしっかりと果たしている様子が伺えた。

(切断)

1学期から継続して同じ活動を準備したことで、見通しを持つことができ、活動に対する責任感が芽生えた。補助具を操作する速さや力加減が今後の課題である。



(磨き・柱切断)

どちらも2学期から始めた活動であるが、柱切断はその日に切断しなければならぬ本数を自分で確認しながら行うことができた。磨きでは、出来具合を教師に確認しながら活動を進めた。磨き不足な点は、手触りで見本と比べながら確認することができた。



(メモスタンド作り)

ボール盤に興味を持って取り組み、ダボ打ちは自信を持って行うことができていた。用紙入れは集中力を切らすこともあったが、声かけにより丁寧に作業できるようになった。他の生徒が機械を使っていると作業が止まったり集中できないことがあった。



(竹串穴あけ)

1学期と同じような活動を行ったが、木材が小さくなったため1セット仕上げるのがやっとだった。慣れてくるとチェック表を自分で確認しながら、1セット半仕上げるできるようになった。仕上げた物を次の工程に自分で持って行くことで自分の役割を意識することができた。木材を押さえる補助具の向きを判断することもできるようになってきた。



(柱穴あけ、溝切り、面取り)

溝切り、面取りは新しい活動であったが、戸惑うことなく理解して取り組むことができた。継続して取り組んでいるボール盤を使った穴あけは、手順等しっかり理解している。丁寧に欠ける場合は声かけを行った。



(組み立て)

1学期から継続して組み立てを行った。今回の組み立ては流れが複雑でわかりづらかったが、手順書の改良と新たに部品棚を設置したことで、ほぼ一人で活動を進めることができるようになった。ボンドの量の調節が難しく、最初はたくさんボンドをつけていたが、面に塗る際は筆で行うことで、自分で量を判断しきれいに塗ることができるようになった。



(6) 事例 (実践紹介)

【岩本くん (1年生) の様子】

生徒の様子		
<p>1学期「ラック×ラック」の製作では、平板に竹串の穴あけを行った。初めは、機械の安全な操作や作業の手順を理解することが難しかった。そのため、手順チェック表を取り入れると、3週目くらいから自分で活動の流れを確認しながらほぼ一人で作業をすることができるようになった。作業スピードは、ゆっくりだが時間いっぱい活動することができる。</p>		
単元でのねがい		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表に従い作業を進め、時間いっぱい活動してほしい。</li> <li>・安全に取り組んでほしい。</li> </ul>		
活動内容	手だて	活動での様子
第1週 竹串穴あけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表を準備し、教師と一緒に確認しながら作業を進める。</li> <li>・木材が小さくなったため、木材の押さえを準備する。</li> <li>・分かりやすいように押さえる道具に色をつけて、セットできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新製品のため、完成品のイメージをしっかりと捉えることが難しく、どの部分を担当しているかわからなかった。</li> <li>・チェック表を教師と一緒に確認することで、スムーズに作業を進めることができるようになった。</li> <li>・押さえの道具を準備したことで、怖がることもなくしっかりと押さえて穴をあけることができた。</li> <li>・1つの道具で2種類の材料の押さえをするため、どちらの向きでセットすればよいかわかりにくかったが、色をつけたことで自分で向きを判断できつつある。</li> </ul>
第2週 竹串穴あけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成品を提示し、自分の担当がどの部分かを教師と一緒に確認する。</li> <li>・チェック表を自分で確認しながら作業を進めるように、声かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成品を提示して、教師と一緒にどの部分に穴あけをしているかを確認すると、嬉しそうな表情を見せた。</li> <li>・1週目の復習をチェック表を使って教師と一緒にいき、流れが定着するように活動を進めた。1週目に比べて、一人で作業を進める姿が多く見られるようになった。</li> </ul>
第3週 竹串穴あけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表を自分で確認しながら作業を進め、できあがったら報告を行い教師が確認するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穴あけを終えてから報告をすることが定着しつつある。作業に慣れスピードも上がっているが、きちんと貫通できていないときがある。次の手順を覚えていてチェック表を使わなくても活動できることが増えてきた。</li> </ul>
単元を振り返って		
<p>1学期と同じような作業内容であったが、作業製品が異なるために、初めは教師と一緒に作業を進めることが多かった。次第に作業スピードが上がり、他の生徒の様子も意識しながら作業活動をすることができるようになった。安全性を確保し、作業手順を間違えないようにチェック表を準備したが、チェック表を意識するあまり結果的に作業が遅くなりがちであった。チェック表をみなくても作業が進められるようになったときにチェック表をなくすことが、さらに作業スピードを上げることになったのではないかと考える。</p>		

## (7) 単元を振り返って

### < 単元全体 >

#### ア 活動の進め方

朝の会の時間を使ってその日の日程確認とまつりまでのカウントダウンを行うようにした。カウントダウンは、店長の仕事と位置づけ毎日繰り返し行うことで、少しずつ店長として自覚が芽生えたようだ。まつりまでのスケジュール表を貼ることで、本日の活動や今後の予定など自分で確認する姿も見られた。

#### イ 場の設定、教材・教具の工夫

準備活動、工芸、園芸とそれぞれ活動場所を設定することで、見通しを持って活動に取り組むことができた。カウントダウン看板作りやのあてゲーム、販売の準備等では、それぞれの持っている力をより発揮できるよう、ステンシルや筆、文字の下書き等を準備することができた。一人で文字を書くことが難しい生徒でも、ステンシルシートを準備することで値札を作り上げることができた。

#### ウ 教師のかかわり方

楽しく活動できるよう雰囲気作りや声かけ等に心がけた。文字書きや色塗りの活動では苦手意識を持つ生徒もいたが、前向きに活動に取り組めるよう「少しずつやってみよう」「きれいにできたね」等の声かけを行うことで、意欲的に取り組む姿が少しずつ増えてきた。

### < 作業学習 >

#### ア 作業学習の進め方

同じ活動を毎日繰り返し、時間いっぱい行うことで自分の役割を認識し、意欲的に取り組む姿が多く見られた。生徒が分かるような個別目標を設定することで、目標達成する喜び、次回への活動意欲を持つこともできた。また、活動の終わりにその日の成果を発表することで、生徒の様子を共通理解し、賞賛することができた。

#### イ 場の設定や教材・教具等の工夫

生徒一人一人に合った補助具の開発・工夫を行うことができた。活動を進めながら、利便性、必要性を考え補助具を発展させることができた。場の設定においては、製品の工程上複雑な動線になった。必要な活動場所の確保、わかりやすい動線の組み方をさらに工夫することが必要である。

#### ウ 教師のかかわり方

教師も一役を担うことで、仕事をする仲間として活動することができた。生徒の横や前で一緒に仕事をする中で、仕事に対する意識の持ち方、働く姿勢などを感じ取ることができたのではないかと思う。活動中は、できるだけ必要最小限の声かけにし、時間いっぱい活動する雰囲気作りにつながるようにもなった。材料を受け渡す際に「ありがとう」「お願いします」など生徒の意欲になるような声かけも自然と出てきた。

授業研究会においてたくさんの意見・感想をいただくことができた。今後の課題として、安全面衛生面の確保をより追求するために磨きや溝切り等の工程にマスクの着用や清掃用具使用などが挙げられた。さらに一人一人がよりかがやいて活動する姿を求めて工夫改善に取り組んでいきたい。

## 4 成果と課題

### (1) 年間の取り組みについて

1学期は「販売会に向けて～ニコニコスマイル商店～(工芸)」に取り組んだ。単元前には学部検討会で生徒の適正やニーズ等を考慮しながら担当工程を決め、生徒一人一人の支援について共通理解を図り、一人一人に合わせた補助具の開発を行った。また、6月には授業研究会を行い、前菊池養護学校長の岡野先生に助言を頂いた。「作業の量や時間を視覚的に個に応じた提示する」ことなど、様々な助言をいただくことができた。その後学部でよりよい支援内容や方法を目指して話し合いを行ってきた。

2学期は新製品の製作に取り組んだ。見通しが持てるように、ほとんどの生徒は1学期と同じような活動に継続して取り組んだ。1学期の研究授業での助言を参考にして、新しい活動も補助具や工程の工夫によって戸惑うことなく取り組むことができた。

### (2) 授業づくりの3つの観点について

#### ア 活動の進め方

毎日繰り返し担当する工程に取り組んだことにより、作業工程をしっかりと理解し、手順表がなくても取り組める生徒も出てきた。活動のスピードも上がり、1日の製作数も日ごとに増え、初めの週に比べ最終週では2倍ほどの出来高になった。

#### イ 場の設定や教材・教具等の工夫

年間を通して一人一人に応じた補助具を準備したことにより、生徒がより主体的に取り組むことができるようになってきた。一人一人に応じた補助具を準備したため「この工程は自分だけのもの」という意識も芽生え、自分の工程に対しての責任感も出てきた。

#### ウ 教師のかかわり方

気分や雰囲気によって活動が大きく左右される生徒がいるため、1学期は派手に盛り上げて活動を促していたが、2学期に入り活動に慣れてくるに従って盛り上げるための声かけを少なくしても取り組めるようになった。活動の手順などを忘れたときには最低限の声かけを行い、自分で考えたり、気づいたりして活動に取り組むことができた。

### (3) 今後の課題

補助具等の活用により、生徒のできる状況づくりを主軸として研究を行ってきた。そのことで、生徒は活動に見通しを持ち主体的に取り組めるようになった。しかし、生徒によっては(または工程によっては)生徒の成長と共に、補助具を徐々にはずしていき、生徒自らの力で取り組めるような手だても必要である。補助具に頼らず自分の力でできたときの喜びや自信はより大きなものだと思われる。

来年度は生徒数の変動により、作業班を2つに分けて取り組む可能性がある。工芸では今年度より数人減ることになるため、少人数でも製品の質を落とさず取り組むための手立てや製品の開発・改良が必要となってくる。今年度の反省を生かし、今後も個性を大切に支援を行っていきたい。